

消防用耐熱電線（小勢力回路用耐熱電線）の配線区分と接続方法

使用区分（耐火耐熱保護配線の範囲）

金属管なしで露出配線ができる消防設備用耐熱電線および、耐火電線の使用区分は次の通りです。

1. 屋内消火栓設備・屋外消火栓設備

5. ガス漏れ火災警報設備

10. 連結送水管

2. スプリンクラー設備・水噴霧消火設備・泡消火設備

6. 非常ベル・自動式サイレン

11. 非常コンセント設備

3. 二酸化炭素消火設備・ハロゲン化物消火設備・粉末消火設備

7. 放送設備

12. 無線通信補助設備（増幅器がある場合）

4. 自動火災報知設備

8. 誘導灯

9. 排煙設備

(注)*1: 中継器の非常電源回路（中継器が予備電源を内蔵している場合は、一般配線でもよい）
 (注)*2: 発信機を他の消防用設備などの起動装置と兼用する場合、発信機上部表示灯の回路は非常電源付の耐熱配線とすること。
 (注)*3: 受信機が防災センターに設けられている場合は、一般配線でもよい。
 ※警報用ケーブルは当社のNPをご使用ください。

●非常電源専用受電設備の場合は、建物引込点より規制される。
 ●蓄電池設備を機器に内蔵する場合は、機器の電源配線を一般配線とすることができる。

耐熱電線 N-300の接続方法

※詳細は小勢力回路用耐熱電線接続部標準工法を参照してください。

線心接続部

単心接続方法

多心接続方法

① 導体 ③ 耐熱テープ ⑤ ケーブル絶縁体 ⑦ 線心接続部
 ② 導体接続圧着スリーブ ④ 粘着ビニルテープ ⑥ ケーブルシース

1. シース、絶縁体を順次剥ぎ取り、導体を出します。
2. 圧着スリーブにより、導体相互を接続します。
3. 接続した導体上に耐熱テープを $\frac{1}{2}$ ラップで1回以上巻き付けます。
4. さらにその上に粘着ビニルテープを $\frac{1}{2}$ ラップで2回以上巻き付けます。単心の場合はシース厚さに相当する厚みを巻き付けて完了とします。
5. 多心ものは、1～4項までの処理を必要線心数行ったものを一括して、粘着ビニルテープをシース厚さに相当する厚みに巻き付けます。ただし、押え巻きテープ又は遮へい付の場合は、ケーブル部と同じ材質、構造のテープ又は遮へいを施してから、粘着ビニルテープを巻き付ける。